

平成 24 年度 生物 I の学習（シラバス）

1 科目名，単位数，履修学年，履修区分，使用する教科書

科目名	生物 I	単位数	4	履修学年・区分	第 3 学年（選択）
使用する教科書	新編 生物 I（東京書籍）				
副教材等	スクエア最新図説生物（第一学習社）				

2 学習目標

この地球上にはたくさんの生物が生活しています。もちろんわれわれヒトも生物です。姿形や生活環境等はそれぞれ違います。しかし、すべての生物に共通していることがあります。それは細胞と呼ばれるものから作られているということです。細胞が集まって組織・器官を形成し、さらにそれらが集まって一つの個体を作り上げているのです。生物 I では、生物や生物現象についての観察、実験を行い、自然に対する関心や探究心を深め、生物学的に探究する能力と態度を身に付けるとともに、科学的な自然観を身に付けけることを目標とします。

3 学習方法

- ① 生物に関する内容を扱ったテレビ番組や新聞記事が身近にたくさんあります。積極的に触れてみましょう。
- ② ノートには、板書を写すだけでなく、口頭での説明もきちんと記入しましょう。復習時にまとめれば、あなただけの参考書になります。
- ③ 授業を受けていて解らないことなどがあった場合には、そのままにせず遠慮なく質問しましょう。
- ④ 実験・観察は重要です。目的や方法をきちんと理解し、実験に臨みましょう。また、レポートには「結果」の他に「考察」を必ず書きましょう。

4 学習計画

学 期	月	学習内容（単元名）	学習事項・学習活動	評価のポイント
第 1 学 期	4	序章：生物学を学ぶみなさんへ「生命」 探究活動の進め方 コンピュータの活用 顕微鏡の使い方	生物 I についての学習 内容や評価の方法を理解します。 サクラの開花を例として、 生物の学習方法・研究方法を理解します。	・現象を観察した結果にもとづいて仮説を立て、 仮説の検証を通して自然の法則が立証されることを理解する。

	5	1 編 細胞から個体へ 1 章 細胞のはたらきと構造 A 細胞は生命の基本単位 B 細胞のはたらきと構造	すべての生物が細胞からできていて、細胞が生命体の基本単位であることを理解します。 核や細胞質など、細胞内の構造や働きを、図や探究活動を通して理解します。	・細胞説を理解する。 ・細胞の構造について理解すると共に、それを構成する各器官の役割について理解している。 ・顕微鏡の構造や使用方法を習得している。 報告書（実験：細胞の観察） 報告書（実験：原形質流動）
		C 細胞膜の性質とはたらき D 酵素のはたらき	細胞膜を通して行われる細胞内外の物質の出入りを、細胞内の調節のしくみと関連させながら、図や観察を通して理解します。 生物の体の中では、酵素のはたらきによって、さまざまな化学反応が起こっていることを理解します。また、細胞内の化学反応で得られたエネルギーを生命活動に利用していることを理解します。	・細胞膜がもつ物質の透過性に関心を持ち、植物と動物における浸透の違いを探究している。 ・浸透圧と吸水力、膨圧を、グラフを含めて理解している。 報告書（実験：原形質分離） ・触媒は、それ自身は変化せず、化学反応を促進する物質であることを理解する。
		第1学期中間考査 範囲 教科書 P. 8～P. 27		
	6	2 章 細胞分裂 A 細胞の増殖 B 染色体の形状と数 C 細胞の分化	1 個の細胞がどのようにして増殖していくのかを、染色体に注目して図や探究活動を通して理解します。	・各時期における細胞分裂の特徴を理解し、知識を身に付けている。 報告書（実験：体細胞分裂）

第2学期	7	3章 生物のからだと細胞 A 単細胞生物と多細胞生物 B 動物のからだのつくりとはたらき C 植物のからだのつくりとはたらき	生物には、1個の細胞からなる生物や、多くの種類の細胞が集まってできている生物がいることを、図や観察を通して理解します。	・植物および動物の体を形作る、さまざまな組織の働きを探究することができる。
		第1学期期末考査 範囲 教科書 P. 28～P. 47		
	9	2編 生殖と発生 1章 生殖 A 無性生殖 B 有性生殖 C 減数分裂 D 有性生殖で生じる多様性	生殖にかかわる細胞を作るための細胞分裂としての減数分裂のしくみを、染色体に注目して図、観察を通して理解します。	・生殖には無性生殖と有性生殖とがあることを理解し、知識が身に付いている。 ・減数分裂の過程、その特徴、また、体細胞分裂との違いなどを理解し、知識が身に付いている。
		2章 動物の生殖と発生 A 配偶子の形成と受精 B 受精 C 発生の始まり D ウニの発生 E カエルの発生	動物と被子植物の生殖細胞の作られ方や受精のしかたを、図や観察を通して理解します。 受精卵から親と同じ形をした個体になるまでの過程を、ウニやカエルを例に、図や観察、視聴覚教材等で理解します。	・動物における配偶子の形成過程および、被子植物の配偶子の形成について理解し、知識が身に付いている。 ・卵割の過程が、動物の種類によって少しずつ異なることを中心に理解し、知識が身に付いている。
		3章 発生のしくみ A 発生のしくみをとらえよう B 発生を導くしくみ～形成体と誘導～ 4章 植物の生殖と発生 A 被子植物の生殖細胞の形成	どのようなしくみで生物の複雑な体が作られていくのかを、図や探究活動を通して理解します。 動物の発生と異なる発生過程を、サクラを例に図や視聴覚教材等で理解します。	・調節卵とモザイク卵の違いを認識する。 ・原口背唇と呼ばれる部分に関心を持ち、その働きを探究する。 ・被子植物の特徴である重複受精を理解し、知識が身に付いている。

第2学期中間考查 範囲 教科書 P. 48～P. 85			
10	3編 遺伝	生物が持つ形質が、親から子へと伝えられる遺伝という現象とその法則性を、図や資料学習、演習問題、探究学習を通して理解します。	・優性の法則、分離の法則、独立の法則という三つのメンデルの法則について、一つ一つ明確に理解し、知識が身に付いている。
	1章 遺伝の法則		
	A メンデルの実験		
	B 一遺伝子雑種		
11	C 二遺伝子雑種		
	D いろいろな様式の遺伝		
	2章 遺伝子と染色体	染色体が性決定に関わりがあることや、遺伝子の連鎖や組換えについて、図や実習、観察を通して理解します。	・遺伝子が染色体に存在することを認識する ・遺伝子が連鎖していないで、違いが生じることを理解し、知識が身に付いている。 報告書（実験：巨大染色体） 報告書（実験：DNA抽出）
	A 染色体説		
12	B 連鎖と組換え		
	3章 性と遺伝		
	A 性の決定		
	B 伴性遺伝		
13	4章 遺伝子の本体	遺伝子の本体について、研究者の実験例や観察、実習を通して、理解します。	・形質転換を起こさせる物質はタンパク質ではなくDNAであることを理解する。 ・DNAの構造が二重らせんであることを理解する。
	A 遺伝子とDNA		
	B 形質転換		
	C バクテリオファージの実験		
第2学期期末考查 範囲 教科書 P. 86～P. 115			
14	4編 刺激の受容と行動	神経系や感覚器官、効果器の構造やはたらきを、図や探究活動を通して理解します。	・神経細胞の構造および、興奮の伝導・伝達の違いを理解し、知識が身に付いている。
	1章 刺激の受容から反応まで		
	A 刺激の受容から反応までの流れ	神経系のつくりや中枢神経のはたらきについて、図を用いて理解します。	報告書（実験：盲斑の存在と形） 報告書（実験：鶏頭の解剖）
	B 刺激の受容		
15	C 刺激と興奮		
	D 神経系		
	E 効果器のはたらき		

第 3 学 期	1	2章 動物の行動 A 走性 B 本能行動	動物の特徴的な生得的な行動を、視聴覚教材を通して理解します。	・生物が生まれながらにもつ様々な行動や、生物が生後獲得する行動を理解する。
		5編 内部環境と恒常性 1章 内部環境と体液 A 外部環境と内部環境 B 体液の組成とはたらき C 体液の成分の調節	恒常性の調節の仕組みについて、図や視聴覚教材を通して理解します。 血液・組織液・リンパ液などの体液の循環やはたらき、生態防御について、図や視聴覚教材を通して理解します。 腎臓の構造とはたらきについて、図や視聴覚教材を通して理解します。	・外部環境と内部環境の違いを学ばせ、内部環境を一定に保つしくみを恒常性と呼ぶことを理解する。 ・体液の種類およびそれぞれの組成とはたらきを理解する。 ・ヒトの腎臓の構造とはたらきを学ばせ、尿が形成されるしくみを理解する。
	2	学年末考查 範囲 教科書 P. 116～P. 159		
		2章 自律神経系と内分泌系 A 自律神経系による調節 B 内分泌系による調節 C 自律神経系と内分泌系による調節	ホルモンや自律神経について、図を用いて理解します。 内部環境が一定に保たれるしくみを、図を用いて理解します	・生物の内部環境が常に一定に保たれるのは、ホルモンと自律神経系の調節によるものであることを理解する。
		6編 環境と植物の反応 1章 植物の生活と環境 A 植物が生きていくための条件 B 水を植物全体に行き渡らせるしくみ C 光合成と環境条件	植物と環境要因について、図や資料学習を通して、理解します。	・植物の成長には、光、水、二酸化炭素が必要であり、動物と同じように植物ホルモンにより成長が調節されていることを理解する。
		2章 植物の反応と調節 A 植物の発芽から落葉・落果まで B 種子の発芽と環境要因 C 花芽形成の調節	植物の成長の調節のしくみや花芽形成、発芽の調節のしくみを、図や視聴覚教材を通して理解します。	・植物の休眠、発芽、分化、茎の伸長、開花、落葉、落果などには多くの植物ホルモンが関与していることを理解する。

		D 植物の成長と環境要因 E 落葉と結実の調節		る。
--	--	----------------------------	--	----

5 学習評価

(1) 評価の観点及び内容について

以下に示す四つの観点に基づき、学習内容のまとまりごとに評価を行い、学年末に 5 段階の評定に総括します。

なお、学習計画に示された「評価のポイント」は四つの観点と結び付いた具体的な評価基準と考えます。

評 価 の 観 点 及 び 内 容	
1 自然の事物・現象に対する「関心・意欲・態度」	生物や生物現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究するとともに、科学的態度を身に付けている。
2 科学的な「思考・判断」	生物や生物現象の中に問題を見だし、観察、実験などを行うとともに、事象を実証的、論理的に考えたり、分析的・総合的に考察したりして、問題を解決し、事実に基づいて科学的に判断する
3 「観察・実験の技能・表現」	生物や生物現象に関する観察、実験の技能を習得するとともに、それらを科学的に探究する方法を身に付け、観察、実験の過程や結果及びそこから導き出した自らの考えを的確に表現する。
4 自然の事物・現象に対する「知識・理解」	観察、実験などを通して生物や生物現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。

(2) 「評価の観点」の評価方法について

評価方法 観点	観点 1	観点 2	観点 3	観点 4	備考
学習状況の観察	◎	◎	◎	○	授業中の態度。
提出物	○	○	◎	◎	実験レポートや問題集。
ノート	◎	○	○	○	年 5 回提出。再提出あり。
定期考査	○	◎	○	◎	年 5 回考査。

(◎は観点の中で特に重視するという意味です。)

平成24年度 簿記のシラバス

1 科目名, 単位数, 履修学年, 履修区分, 使用する教科書

科目名	簿記	単位数	2	履修学年・区分	第3学年Aコース(選択)
使用する教科書	新簿記新訂版(実況出版)				
副教材等					

2 学習目標

- ①多岐にわたる帳簿記入のルールを覚えましょう。
- ②全国商業高等学校協会主催珠算・電卓実務検定試験を受験し、資格を取得しましょう。
- ③世の中の経済状況やビジネス情報の関心を高めましょう。

3 学習方法

- ①ルールや簿記用語を覚えるために、重要事項をノートにまとめます。
- ②基本問題をしっかり理解し、応用問題へ発展させます。
- ③練習問題を沢山解くことにより、学習を定着させます。よって、とにかく沢山書きます。
- ④簿記の用語は漢字が多いので、繰り返し書いて覚えます。やはり、沢山書きます。
- ⑤正確な計算が要求されます。正確で速い計算能力を身に着けるよう練習します。
- ⑥新聞等を利用して、ビジネスへの関心を高めます。

4 学習計画

学期	学習内容(单元名)	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	第1編簿記の基礎	・簿記の基礎 ・貸借対照表の作成 ・損益計算書 ・取引と勘定 ・仕訳と転記 ・仕訳帳と総勘定元帳 ・試算表 ・6桁精算表	・簿記の意味や目的などが理解できたか。 ・簿記上の取引が理解できたか。 ・貸借対照表が作成できたか。 ・損益計算書が作成できたか。 ・取引の分解と勘定記入ができたか。 ・仕訳と転記ができたか。 ・仕訳帳と総勘定元帳の記入方法が理解できたか。 ・試算表が作成できたか。 ・貸借が一致しない場合の確認方法が理解できたか。 ・6桁精算表が作成できたか。 ・6桁精算表と損益計算書・貸借対照表との関係が理解できたか。
	第1学期期末考査		
第2学期	第2編取引の記帳	・現金・預金などの取引 ・掛け取引 ・手形の取引	・現金として扱うものについて理解できたか。 ・現金出納帳が作成できたか。 ・当座預金と小切手の関係が理解できたか。 ・当座預金出納帳が作成できたか。 ・小口現金出納帳が作成できたか。 ・売掛金、買掛金に関する仕訳が理解できたか。 ・手形の記入内容が理解できたか。 ・約束手形・為替手形と記帳上の支払手形・受取手形の関係が理解できたか。
	第2学期期末考査		

第 3 学 期		・ 仕訳問題の総復習	・ 仕訳問題が解けるか。
	第 4 編伝票	・ 3 伝票制	・ 取引を伝票に起票できたか。 ・ 伝票集計ができたか。
	<u>学年末考査</u>		

5 学習評価

- ①定期考査の点数。
- ②ノートやプリントの提出状況。
- ③授業中の小テストの点数。
- ④電卓検定試験にむけての練習状況・結果。
- ⑤新聞記事等への取り組み。
- ⑥授業中の学習態度，毎時間が評価の対象となります。真剣な取り組みが大切です。

以上を総合的に判断し，評価します。

平成 24 年度 化学 I の学習（シラバス）

1. 科目名，単位数，履修学年，履修区分，使用する教科書

科目名	化学 I	単位数	4	履修学年・区分	第 3 学年（選択）
使用する教科書	高等学校 改訂 新化学 I（第一学習社）				
副教材等	ネオパルノート化学 I（第一学習社）				

2. 学習目標

化学 I では，中学校理科や理科総合 A を基本に，さらに進んだ化学的な方法で自然の事物・現象に関する問題を取り扱い，基本的な概念や原理・法則を理解するとともに，探究の過程を通して，化学の方法を習得し，科学的な自然観を身につけることを目標とします。

3. 学習方法

- ① TV 番組や新聞記事にも化学 I の内容を扱ったものは数多く見られます。興味ある分野は自分から積極的に触れていきましょう。
- ② ノートはただ板書を写すだけでなく，自分に分かりやすいようにまとめましょう。
- ③ 授業の復習を問題集やプリントを使用して適宜行い，知識の定着を図りましょう。
- ④ 実験・観察はその目的や方法をきちんと理解した上で臨みましょう。また，実験結果から考察を導くことも忘れないように。

4. 学習計画

学 期	月	学習内容（单元名）	学習事項・学習活動	評価のポイント
第 1 学 期	4	第 I 章 物質のなりたち 第 1 節 物質とその構成要素 1 物質と人間生活 2 物質の成分 3 化合物・単体と元素 4 成分元素の検出 5 原子のなりたち 6 原子の電子配置と周期表	物質の成り立ちを理解します。 化合物と単体の違いを理解し，成分元素の検出の方法を理解し身に付けます。 原子の構造と周期表を理解します。	・物質の構成要素とその分離方法やその操作について理解する。 ・化合物・単体の成分と、元素について理解する。 ・原子の構造と周期性について理解する。
	5	第 2 節 物質の構成粒子と物質質量 1 イオン 2 イオンからできる物質 3 分子からできる物質 4 原子からできる物質 5 原子量・分子量・式量 6 物質質量 7 溶液の濃度	イオンや分子・原子からできている物質の性質について理解します。 原子量について理解し，分子量や式量の求め方を身に付けます。 物質質量と質量・体積の関係を理解します。	・物質の成り立ちの違いと性質の違いを理解する。 ・原子量と質量の関係を理解し，分子量や式量の求め方を理解する。 ・物質質量と質量・体積の関係を理解し，それぞれの値を計算により求める。

		第1学期中間考査 範囲 教科書 P. 6～P. 42		
第2学期	6	第Ⅱ章 物質の変化 第1節 物質の変化とエネルギー 1 化学変化と化学の基本法則 2 化学反応式と熱の出入り 3 反応熱と熱化学方程式 4 ヘスの法則	化学反応の基本法則について理解し、化学反応式の作り方を学びます。 化学反応時の熱の出入りを理解し、熱化学方程式の作り方と意味を理解し、ヘスの法則を理解します。	・化学反応の基本の2法則を理解し化学反応式を立式する。 ・化学反応時の熱の出入りを理解し、その表現方法としての熱化学方程式を率式する。 ・ヘスの法則を理解する。
		第2節 酸・塩基と塩 1 酸と塩基 2 水素イオン濃度とpH 3 酸と塩基の反応 4 中和滴定 5 中和滴定とpHの変化	酸と塩基の性質について理解します。 水素イオン濃度とpHの関係を理解します。 中和反応をイオンの結合で理解し、量的関係を理解する。 中和滴定曲線を理解し、中和滴定時のpHの変化を理解します。	・酸と塩基の性質を理解する。 ・水素イオン濃度とpHの関係を理解する。 ・中和反応をイオンの結合として捉え、生成する塩などの量的関係を理解する。 ・中和滴定曲線から、中和点や量的関係を求める。
	7	1学期期末考査 範囲 教科書 P. 44～P. 65		
		第3節 酸化還元反応 1 酸化と還元 2 酸化数と酸化還元反応 3 酸化剤と還元剤	酸化と還元を酸素や水素・電子のやり取りとして理解します。 酸化数から酸化還元反応を理解します。 酸化剤と還元剤の働きを理解するとともに、金属のイオン化傾向を理解します。	・酸化還元を酸素、水素、電子の移動で理解する。 ・酸化数を理解し、酸化数の変化から酸化還元反応を理解する。 ・酸化剤・還元剤の働きを理解し、金属のイオン化傾向を理解する。
	9	4 電池 5 電気分解	4種類の電池の仕組みを理解し、電子の移動を理解します。 水溶液の電気分解を電子の移動から理解し、電気分解の法則を理解します。	・電池の仕組みと電池内の電子の流れを理解する。 ・電気分解にともなう電子の移動を理解し、電気分解の法則を理解する。
	10	第Ⅲ章 無機物質 第1節 非金属元素の単体と化合物 1 元素の分類と水素・希ガス 2 ハロゲンとその化合物 3 酸素・硫黄とその化合物 4 窒素・リンとその化合物 5 炭素・ケイ素とその化合物	非金属元素を分類し、希ガスやハロゲンをはじめ、身近な元素とその化合物についてその性質を理解します。	・非金属元素の分類方法を理解する。 ・希ガスやハロゲン、酸素・炭素などの身近な元素とその化合物の性質を理解する。

		2 学期中間考査 範囲 教科書 P. 66～p. 99		
第 3 学期	11	第 2 節 金属元素の単体と化合物 1 アルカリ金属とその化合物 2 アルカリ土類金属とその化合物 3 アルミニウム・亜鉛とその化合物 4 鉄とその化合物 5 銅・銀とその化合物 6 金属イオンの分離	金属元素の分類について理解します。 各金属元素とその化合物について、それらの特徴および性質を理解します。 複数の金属イオンの分離の方法について理解します。	・金属元素の分類方法を理解する。 ・各金属元素の特徴・性質を理解し、それらの化合物の生成方法や特徴・性質を理解する。 ・複数の金属イオンの分離について理解し、操作できる。
		第 IV 章 有機化合物 第 1 節 有機化合物の特徴と分類 1 特徴と分類 2 石油とアルカン 3 アルケンとアルキン 4 化学式の決定	有機化合物の特徴を理解し、特徴に従って分類します。 身近な有機物として、石油と天然ガスの性質を理解する。 アルカン・アルケン・アルキンの特徴を理解し一般式での表現を理解します。また、シス・トランス異性体など有機物ならではの特徴を理解します。	・有機物とはどのようなものか理解する。 ・アルカン・アルケン・アルキンの特徴を理解する。 ・異性体の構造や性質の違いを理解する。 ・置換反応や付加反応について理解する。
	12	2 学期期末考査 範囲 教科書 P. 100～P. 131		
		第 2 節 脂肪族化合物 1 アルコールとエーテル 2 アルデヒドとケトン	ヒドロキシ基によるアルコールの分類し、それぞれの性質について理解します。 エーテルについて、縮合などの性質を理解します。 アルデヒド基を含む有機物の反応を通して、それらの性質を理解します。	・ヒドロキシ基の数や構造によるアルコールの分類を理解する。 ・いろいろなアルコールの性質を理解する。 ・エーテルの性質を理解する。 ・アルデヒドとケトンの性質を理解する。
	1	3 カルボン酸とエステル 4 油脂とセッケン	カルボシル基を含む有機物やエステル結合を持つ有機物の反応や性質を理解します。 油脂とセッケンや洗剤の関係を理解し、それらの特徴を理解します。	・カルボシル基を含む有機物について、それらの特有の反応や特徴を理解する。 ・エステルに関する反応を通して、エステルの特徴を理解する。
	2	第 3 節 芳香族化合物 1 芳香族炭化水素 2 フェノール類と芳香族カルボン酸 3 アニリンとアゾ染料	ベンゼン環を持つさまざまな有機物について、構造の違いやそれによる性質の違いを理解し、さらにそれらの反応であるジアゾ化を理解する。	・トルエン・安息香酸・フェノールなどの違いや特徴が説明できる。 ・アゾ基の生成の仕方を理解する。

学年末考查 範囲 教科書 P. 132～P. 149				
3	探究活動	成分元素の検出	成分元素の検出の方法・操作について理解します。	・成分元素の検出の方法を理解し、操作ができる。
	探究活動	反応熱の測定	反応熱の測定の方法・操作について理解します。	・反応熱の測定の方法を理解し、操作ができる。
	探究活動	電池を作る	電池を作成し、電池の仕組みについて理解します。	・電池の仕組みを理解する。
	探究活動	金属イオンの性質	さまざまな金属イオンの性質について調べ、理解します。	・金属イオンの性質を理解する。

5. 学習評価

(1) 評価の観点および内容について

以下に示す4つの観点に基づき、学習内容のまとまりごとに評価を行い、学年末に5段階の評定に総括します。なお、学習計画に示された「評価のポイント」は4つの観点と結びついた具体的な評価基準と考えます。

評 価 の 観 点 お よ び 内 容	
1 自然の事物・現象に関する「関心・意欲・態度」	化学の現象に関心や探求心をもち、意欲的にそれを探究するとともに、科学的態度を身に付けている。
2 科学的な「思考・判断」	化学の現象の中に問題を見だし、観察、実験などを行うとともに、事実を実証的・論理的に考えたり、分析的・総合的に考察したりして、問題を解決し、事実に基づいて科学的に判断する。
3 「観察・実験の技能・表現」	化学の現象に関する観察、実験の技能を習得するとともに、それらを科学的に探究する方法を身に付け、観察、実験の過程や結果およびそこから導き出した自らの考えを的確に表現する。
4 自然の事物・現象に対する「知識・理解」	観察、実験などを通して化学の現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。

(2) 「評価の観点」の評価方法について

評価方法 観点	観点1	観点2	観点3	観点4	備 考
学習状況の観察	◎	○	◎	○	授業中の態度。
提出物	○	○	◎	○	プリントや問題集。
ノート	◎	○	○	○	年5回提出。再提出あり。
定期考查	○	◎	○	◎	年5回考查。

(◎は観点の中で特に重視するという意味です。)

平成24年度 フードデザインのシラバス

1 科目名, 単位数, 履修学年, 履修区分, 使用する教科書

科目名	フードデザイン	単位数	2	履修学年・区分	第3学年Aコース(選択)
使用する教科書	新版フードデザイン COOKING&ARRANGEMENT (教育図書)				
副教材等					

2 学習目標

栄養, 食品, 献立, 調理, テーブルコーディネートなどに関する知識と技術を習得し, 食生活を総合的にデザインするとともに, 食育の推進に寄与する能力と態度を身に付けます。

3 学習方法

- ①現代の食生活の特徴について, 健康面・安全面・環境問題・心理面など多方面から学びます。
- ②健康的な食生活を送る上で必要な知識や, クローン技術・遺伝子組み換え食品などの新しい技術について学びます。
- ③調理の基本を科学的に学びます。
- ④和洋中の調理実習を通して, 基本的な調理技法を学びます。

4 学習計画

学期	学習内容(单元名)	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	I) 食生活の充実・向上 ①食生活の変化と現状 ②よりよい食生活を創造するために 《調理実習①～④》 和食献立1 洋食献立1 中華献立1 菓子1 《食物調理技術検定3級受検対策》 (期末考査)	わが国の食生活の変化に伴う様々な問題点を, 栄養・自給率・環境など多角的に学びます。 (学習形態) 講義, VTR視聴 《学習形態》 実習 《学習形態》 実技講習, 講義	心身共に健康で豊かな食生活を営むための食事の在り方について考えることが出来たか。
第2学期	II) 健康・栄養・食物 ①なぜ食物が必要なのか ②健康に必要な栄養素 ③食品の成分と変化 ④食品の加工 III) 調理と献立 ①調理の基本 ②献立作成 ③様式別の献立と調理・食卓作法 ④テーブルコーディネート 《調理実習⑤～⑩》 食品加工1 和食献立2 洋食献立2 中華献立2 菓子2 行事食1 (期末考査)	各栄養素の種類と栄養的な意義, 食品, それらの人体への影響を学びます。また, 身近な加工食品について学びます。 (学習形態) 講義, VTR視聴 基本的な調理操作の方法や意味を学び, 調理の基本を身に付けます。また, 献立作成能力や様式別テーブルコーディネートの実践力を身に付けます。 (学習形態) 講義, VTR視聴, 実習 《学習形態》 実習	・各栄養素の種類と働きを理解することができたか。 ・各ライフステージごとの栄養の特徴を知り, 調理に生かすことができたか。 ・食品に関する様々な情報を収集し, 適切に判断することができたか。 ・調理の目的について理解することができたか。 ・のぞましい献立作成のための留意点を理解することができたか。 ・各料理にふさわしいテーブルコーディネートを理解し, 実践できたか。

第 3 学 期	《調理実習⑪～⑫》 行事食2 自主献立 (期末考査)	《学習形態》 実習，調べ学習	
------------------	---	-------------------	--

5 学習評価

我々人間にとって、「食」はなくてはならないものです。豊かな食生活は、健康面だけでなく精神的な満足感をも与えてくれるものです。

この授業では、講義で科学的・人文学的に食を学ぶと共に、実習でより高度な調理技術を身に付けていただきたいと思います。料理が得意な人も不得意な人も、自分自身の食生活を見直すきっかけとしませんか？

平成24年度 児童文化のシラバス

1 科目名, 単位数, 履修学年, 履修区分, 使用する教科書

科目名	児童文化	単位数	2	履修学年・区分	第3学年Aコース（選択）
使用する教科書	児童文化（教育図書）				
副教材等	専門書等より資料作成				

2 学習目標

子どもと遊び, 子どもの表現活動, 児童文化財などに関する知識と技術を習得し, 児童文化の充実を図る能力と態度を身に付けます。

3 学習方法

- ①講義（ワークシートを利用）
- ②実技（発表・相互評価）
- ③実技（作品制作・相互評価）

4 学習計画

学期	学習内容（単元名）	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	オリエンテーション 【児童文化とは何だろう】 ①児童文化とは ②児童文化を歴史から見る 【子どもと遊び】 ①子どもの表現活動 ②造る・描く ③言語表現活動 ④歌う・踊る・演奏する ⑤幼稚園における表現活動の実態	・文化活動, 児童文化財, 児童文化施設などの重要性について学ぶ。また, 社会の変化に伴い, 子どもの遊びの環境が変化する中での児童文化の役割について考える。 ・子どもの遊びの重要性や遊びの種類と発達との関係を学ぶ。 ・子どもの表現活動の意義を学ぶ。 ・伝承遊びの種類や遊び方, 与え方を学ぶ。	・ワークシート提出 ・課題提出 ・ワークシート提出 ・児童文化財の制作, 作品提出 ・朗読発表
第2学期	【子どもと文学】 ①紙芝居 ②絵本 ③児童文学 ④アニメーション 【現代の子どもの生活と文化】 ①テレビ, キャラクター ②ゲーム ③子どもと年中行事 【課題研究】	・絵本を各自15冊以上読み, 読書カードを作るとともに読み聞かせの発表をする。 ・紙芝居の発表をする。 ・テレビ, キャラクター, ゲームについて認識を深める。 ・折り紙, ちぎり絵, 絵本等を各自で制作する。	・ワークシート提出 ・読み聞かせカード ・読み聞かせ発表 ・紙芝居発表 ・ワークシート提出
第3学期	※2学期の続き		・作品制作, 提出

5 学習評価

講義中心の座学もありますが, 実技がメインの授業です。また, 定期試験は実施せず提出されたワークシートや作品で評価を行います。
美術や家庭科が得意な人も苦手な人も, 積極的に授業に参加することが大切です。
子どもは, 皆さんもそうであったように, 遊びを通して様々なことを学び, 成長していきます。「おとな目線」だけでなく, 時には「子ども目線」に戻って楽しみながら取り組みましょう。

平成24年度 情報処理のシラバス

1 科目名, 単位数, 履修学年, 履修区分, 使用する教科書

科目名 情報処理	単位数 3	履修学年・区分	第3学年Aコース
使用する教科書	情報処理21 新訂版(実教出版)		
副教材等			

2 学習目標

- ①全国商業高等学校協会主催ワープロ実務検定試験を受験し、資格を取得しましょう。
- ②ソフトウェア（ワード・エクセル・パワーポイント・ムービーメーカー）の技術を身につけましょう。
- ③新聞やインターネットを通して情報を収集し、要約や自分の意見が言えるようになりましょう。

3 学習方法

- ①パソコン室でのパソコン実習が中心です。「習うより慣れろ」の精神です。時々、実技テストを実施し、評価の基礎とします。
- ②パソコンを使うために必要な用語等を理解しましょう。基礎知識も身につけて社会人になりましょう。必要に応じ、小テストを実施し、評価に含めます。
- ③新聞やインターネット、DVD教材等を使用します。情報を収集し、的確に理解することが大切です。その情報について、自分の意見をまとめましょう。その提出状況や内容は、評価に含めます。この活動は就職・進学試験の面接や社会人になった時、必ず皆さんの役に立つと思います。
- ④授業中の態度も重要です。パソコンが得意だからと勝手なことをしていたり、手を抜いてはいけません。また、不得意であっても、真剣に取り組むことが大切です。その取り組みの様子は、毎時間が評価の対象となります。

4 学習計画

学期	学習内容(单元名)	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	ワードの学習 第1章 第3節 3 ソフトウェアの基本操作	・パソコンの基本操作の確認。 ・ワードによる文字入力の実習。 ・ビジネス文書の形式、内容についての学習。 ・ワープロ実務検定試験の希望級(第1～4級)の決定。 ・筆記試験対策。 ・実技試験(速度・文書)対策。	・パソコンを責任を持って適切に扱っているか。 ・ローマ字入力、ブラインドタッチができていないか。 ・ビジネス文書について理解できたか。 ・パソコン用語・ビジネス用語・国語的内容(漢字・読み・諺・敬語等)について理解できているか。説明事項をプリントに記入できているか。 ・(速度)10分以内に各級の問題を正確に打ち終えることができるようになったか。 ・(文書)15分以内に各級の指示にあるビジネス文書を適切に入力できているか。
	エクセルの学習 第1章ビジネスと情報処理 第2章 表計算ソフトウェアの活用	・ビジネスとコンピュータ ・ハードウェアとソフトウェア ・表計算 ・グラフ作成	・ビジネスにおけるコンピュータの利用について理解できたか。 ・コンピュータの構成要素が理解できたか。 ・表の作成方法が理解できたか。 ・関数が理解できたか。 ・グラフ作成方法が理解できたか。

	第5章 情報通信ネットワーク	・インターネットの利用について	・情報通信の仕組みが理解できたか。 ・情報を収集し、適切に利用できているか。
	第6章 情報化社会のセキュリティとモラル	・情報化社会の問題点と対処について	・情報化社会の問題点について理解できたか。 ・著作権・肖像権について理解できたか。
	パワーポイントの学習	・プレゼンテーションの実施	・パワーポイントの操作方法を理解できたか。 ・報告書が作成できたか。 ・みんなの前で発表ができたか。
第3学期	ムービーメーカーの学習	・デジタルカメラで写真撮影 ・作品制作	・デジタルカメラでの撮影方法・取り込み方法が理解できたか。 ・肖像権に配慮できたか。 ・多くの観点から評価する（例：ストーリー性、画像編集・適切なコメント、印象、個性等）。 ・生徒同士の相互評価も実施する。

5 学習評価

- ①実技テストの点数。
- ②情報処理用語の小テストの点数。
- ③新聞学習や情報収集した事柄をまとめたものの提出状況や内容。
- ④授業中の態度。毎時間が評価の対象となります。真剣な取り組みが大切です。
- ⑤出席状況。欠席してしまうと実習が遅れてしまいます。休まないようにしましょう。

以上を総合的に判断し、評価します。

平成24年度 古典講読のシラバス

1 科目名, 単位数, 履修学年, 履修区分, 使用する教科書

科目名	古典講読	単位数	2	履修学年・区分	第3学年Bコース
使用する教科書	右文書院 新古典講読 説話・随筆・故事・小話・漢詩				
副教材等	なし				

2 学習目標

古典としての古文と漢文を読むことによって、我が国の文化と伝統に対する関心を深め、生涯にわたって古典に親しむ態度を育てる。

3 学習方法

- ① 教科書を繰り返し音読する。
- ② プリントを用いて読解を深める。
- ③ 作品のものの見方や感じ方, 考え方を話し合う。

4 学習計画

学期	月	学習内容 (単元名)	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	4	古文 古今著聞集「母子猿」	①何度も繰り返し音読し, 古文のリズムに慣れる。 ②1, 2年次に学習した歴史的仮名遣いの特徴を再確認する。	①音読することによって, 古文のリズムに慣れ, 正しく読むことができたか。 ②歴史的仮名遣いの読み方が習得できているか。 プリントの提出
	5	沙石集「児の飴食ひたること」	①何度も繰り返し音読する。	①歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直し, 正しく読むことができたか。
	6		②古語辞典を利用して, 本文に適した意味を捉える。 ③係り結びを理解する。 ④話のあらすじを捉え, おもしろさを味わう。	②古語辞典の引き方を習得できたか。 ③係り結びが理解できたか。 ④本文を読み味わうことができたか。 プリントの提出
	7	十訓抄「文字一つの返し」	①何度も繰り返し音読する。 ②活用語は終止形に直し, 古語辞典を利用して, 本文に適した意味を捉える。 ③係り結びを理解する。 ④話のあらすじを捉え, おもしろさを味わう。	①歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直し, 正しく読むことができたか。 ②活用語は終止形に直して, 的確に古語辞典を引くことができたか。 ③係り結びが習得できたか。 ④本文を読み味わうことができたか。 プリントの提出。
第2学期	9	徒然草「つれづれなるままに」	①出典について理解する。 ②暗唱するまで繰り返し音読する。 ③古語辞典を利用して, 正確な解釈をする。 ④『徒然草』執筆の動機や態度をまとめる。	①作品や作者について理解できたか。 ②暗唱できたか。 ③正確に解釈することができたか。 ④作品執筆の動機や態度が理解できたか。 プリントの提出
	10	徒然草「これも仁和寺の法師」	①何度も繰り返し音読する。 ②古語辞典を利用して, 正確な解釈をする。 ③話のあらすじを捉え, おも	①正しく読むことができたか。 ②的確に古語辞典を引き, 正確に解釈することができたか。 ③本文を読み味わうことができ

2 学 期	11		しろさを味わう。	たか。 プリントの提出。
		枕草子「ありがたきもの」	①出典について理解する。 ②何度も繰り返し音読する。 ③古語辞典を利用して、正確な解釈をする。 ④枕草子の類聚的章段の特徴を理解する。	①作品や作者について理解できたか。 ②正しく読むことができたか。 ③的確に古語辞典を引き、正確に解釈することができたか。 ④類聚的章段の特徴を理解することができたか。 プリントの提出。
		方丈記「ゆく河の流れ」	①出典について理解する。 ②何度も繰り返し音読する。 ③古語辞典を利用して、正確な解釈をする。 ④対句を理解する。	①作品や作者について理解できたか。 ②正しく読むことができたか。 ③的確に古語辞典を引き、正確に解釈することができたか。 ④対句を理解できたか。 プリントの提出。
第 3 学 期	12	漢文 「螢雪」 「守株」 「推敲」 「画竜点睛」	①返り点に注意して、訓読する。 ②書き下し文に直す。 ③解釈する。	①訓読することができたか。 ②書き下し文に直すことができたか。 ③語句の意味を確認しながら解釈することができたか。
		1 「朝三暮四」 「蛇足」	①返り点に注意して、訓読する。 ②書き下し文に直す。 ③解釈する。	①訓読することができたか。 ②書き下し文に直すことができたか。 ③語句の意味を確認しながら解釈することができたか。 プリントの提出
		2		
		3		

5 学習評価

(1) 評価の観点及び内容について

以下に示す三つの観点に基づき、学習内容のまとまりごとに評価を行い、学年末に5段階の評定に総括します。

なお、学習計画に示された「評価のポイント」は三つの観点と結び付いた具体的な評価基準と考えます。

評 価 の 観 点 及 び 内 容	
1 授業・教材に対する「関心・意欲・態度」	教科書・ノートをきちんと用意し、ワークシート等のプリントを提出したか。
2 読解力・表現力	内容を理解することができたか。
3 漢字力・語彙力	古語や漢語の意味を捉えることができたか。

(2) 「評価の観点」の評価方法について

学習状況の観察・提出物・ノート・定期考査によって評価します。

平成24年度 数学Ⅱのシラバス

1 科目名, 単位数, 履修学年, 履修区分, 使用する教科書

科目名	数学Ⅱ	単位数	4	履修学年・区分	第3学年 Bコース
使用する教科書	啓林館 高等学校 新数学Ⅱ				
副教材等					

2 学習目標

1章では方程式と式の証明について、2章では図形を方程式で表して図形を調べる方法、3章では指数が0や負の整数、分数になるものなどを学習します。新しく学習する内容に興味を持ち、数学的な考え方ができるようになるとよいと思います。

3 学習方法

大切にしたいのは授業です。授業をしっかり聞いてノートを取り、授業中の演習の中で理解を深めて欲しいと思います。また、問題集などでの復習を通して、理解した内容を定着させましょう。
ぜひ、苦労して解けたときの喜びを味わってください。

4 学習計画

学期	学習内容(単元名)	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	1章 式と証明 1. 整式の除法	- 余りのある整式の除法 - 剰余の定理	整式の除法をし、商と余りを求められる。剰余の定理を理解する、
	2. 分数式の計算	- 分数式の乗法・除法 - 分数式の加法・減法	分数式の計算ができる。
	3. 式の証明	- 等式の証明 - 比例式の証明 - 不等式の証明 - 相加平均と相乗平均	等式、不等式の証明の方法を理解し、証明ができる。
	2章 方程式 1. 複素数	- 複素数 - 複素数の計算	虚数単位 <i>i</i> について理解する。複素数の和、差、積、商を計算し、 $a+bi$ の形で表せる。
第2学期	2. 2次方程式の解	判別式	複素数を解にもつものも含めた2次方程式を解ける。2次方程式の解を判別できる。
	3. 解と係数の関係	2数を解とする2次方程式 2次式の因数分解	解と係数の関係を理解する。
	4. 高次方程式	- 因数定理 - 因数定理の利用	因数定理を理解し、それを用いて3次式以上の因数分解、さらに高次方程式が解ける。
	3章 図形と方程式 1. 直線上の点の座標	2点間の距離 - 中点 - 内分点	直線上において、点の座標が求められる。2点間の距離を求められる。2点を結ぶ線分ABをある比に内分する点の座標を求められる。
	2. 平面上の点の座標	2点間の距離 - 内分点	平面上において、点の座標が求められる。2点間の距離を求められる。2点を結ぶ線分ABをある比に内分する点の座標を求められる。
第2学期	3. 直線の方程式	1点と傾きで決まる直線 2点を通る直線	平面上の直線と方程式の関係が分かる。
	4. 2直線の関係	2直線の交点の座標 - 平行な2直線 - 垂直な2直線	2直線の交点の座標や関係が分かる。
	5. 円の方程式	円と直線	円と方程式の関係が分かる。円

			と直線の共有点の座標が求められる。
第3学期	6. 軌跡と方程式 7. 不等式の表す領域	・ $x > h$ の表す領域 ・ 円と領域	軌跡について理解する。 不等式とその表す領域の関係が分かる。

5 学習評価

評価については、次の4つのポイントを考慮します。 ・1年間に5回行われる定期考査での得点 ・毎回の授業時間の取り組み姿勢 ・提出物の状況 ・出欠席の状況 授業を大切にし、その場その場で理解して次の学習につなげられるようにしましょう。

平成24年度 数学Bのシラバス

1 科目名, 単位数, 履修学年, 履修区分, 使用する教科書

科目名	数学B	単位数	3	履修学年・区分	第3学年Aコース
使用する教科書	啓林館 高等学校 新数学B				
副教材等	啓林館 ファンダノート 数学B				

2 学習目標

第1章では数列について、第2章ではベクトルについて学習します。
 数列では、ある規則に従って並んでいる数の規則について考え、式で表したり、和を求めたりすること、ベクトルでは、大きさや向きをもったベクトルというものについて理解し、身近な図形の中などで利用することを目標にしていきたいと思います。

3 学習方法

大切にして欲しいのは授業です。授業をしっかり聞いてノートを取り、授業中の演習の中で理解を深めて欲しいと思います。また、問題集などでの復習を通して、理解した内容を定着させましょう。
 ぜひ、苦労して解けたときの喜びを味わってください。

4 学習計画

学期	学習内容 (単元名)	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	第1章 数列 1. 数列とその項	- 数列 - 数列の一般項	数列の規則に気づき、一般項を式で表せる。
	2. 等差数列	- 等差数列 - 等差数列の和	等差数列の性質を理解し、一般項が求められる。等差数列の初項から第 n 項までの和が求められる。
	3. 等比数列	- 等比数列 - 等比数列の和	等比数列の性質を理解し、一般項が求められる。等比数列の初項から第 n 項までの和が求められる。
第2学期	第2章 ベクトル 1. ベクトルとその計算	- ベクトル - ベクトルの和 - ベクトルの差 - ベクトルの実数倍 - ベクトルの計算法則 - ベクトルの平行	ベクトルの定義について理解する。平面上に表されたベクトルの和、差、実数倍を表すベクトルを図示できる。ベクトルの計算法則を理解する。平行なベクトルを式で表せる。
	2. ベクトルの成分	- ベクトルの成分表示 和、差、実数倍の成分	平面上に表されたベクトルを成分で表せる。成分表示したベクトルの大きさを求められる。成分表示したベクトルの和、差、実数倍を成分で表せる。
	3. ベクトルの内積	- ベクトルの内積 - 内積と成分 - 内積の計算法則	0でない2つのベクトルとそのなす角が分かっているとき、その内積を求められる。成分表示されたベクトルの内積を求められる。内積の計算法則を理解する。
第3学期	第2章 ベクトル (続き) 4. 位置ベクトル	- 位置ベクトル - 内分点・外分点の位置ベクトル	線分ABをある比に内分する点、外分する点の位置ベクトルを、点A, Bの位置ベクトルで表せる。

5 学習評価

評価については、次の4つのポイントを考慮します。
 ・1年間に5回行われる定期考査での得点
 ・毎回の授業時間の取り組み姿勢
 ・提出物の状況
 ・出欠席の状況
 授業を大切にし、その場その場で理解して次の学習につなげられるようにしましょう。

平成24年度 日本史Bの学習（シラバス）

1 科目名，単位数，履修学年，履修区分，使用する教科書等

科 目 名	日本史B	単位数	4	履修学年・区分	第3学年（選択）
使用教科書	『新選日本史』（東京書籍）				
副教材等	『新詳日本史』（浜島書店）				

2 学習目標

わが国の歴史の展開を世界史的視野に立って総合的に考察し，わが国の文化と伝統の特色についての認識を深めることによって，歴史的思考力を培い，国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養い，真の国際化に対応できることを目標とします。

3 学習方法

（１）常日頃から，社会事象（時事問題，世界の情勢）に興味・関心を持ち，新聞や雑誌などに目を通す習慣を身につけましょう。また，テレビやラジオのニュースなども視聴し，わからない言葉や地名が出てきたら，事典や地図帳で確認することが大切です。

（２）「地理」「歴史」とともに必要最小限のことは暗記することが大切です。しかし，やみ雲に暗記できるわけではありません。「何故このようなことが起こったのか。」，「何故このような産業が盛んなのか。」，「何故このような問題が生じたのか。」常にその背景について考え，理解を深めながら整理して覚えましょう。ＴＶの紀行番組，歴史番組や特集番組も大変役立ちます。また，歴史的な事象に対する興味・関心をさらに深め，発展的な学習に取り組むには，歴史に関する解説書や小説などを読んだり，博物館や郷土資料館などに行って実物を見ることもいいでしょう。

（３）読書の習慣を身につけましょう。ゲームやファッションなどの娯楽に流され，活字離れの社会風潮がありますが，若い時代，感受性の高いときに読んだ本は生きた知識・教養になります。

（４）授業では必ず，資料集や地図帳など副教材を用意すること。授業は教科書，プリント副教材等を使用して進めます。教科書の授業範囲をよく読んで，基本的事項を理解し，わからないところや疑問点を整理して授業に臨みましょう。板書事項以外でも大切なことはメモを取りましょう。受身の学習ではなく，自ら学ぶ学習を心掛けよう。自分から求めた知識は生きた知識になります。また，復習の際は，授業内容を確認し，基礎的な内容の問題集に取り組んでみましょう。学習内容のまとめ毎に，確認テストを行います。

（５）重要な事項や地名・人物名は何度も書くことによって覚えましょう。自分流のサブノートを作って整理すると，理解が深まります。問題集を活用し，単元ごとに問題を解き，実践を積み重ねればより効果的です。

4 学習計画

学期	月	学習内容（単元名）	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	4	オリエンテーション 第1章 古代国家の形成と古代文化	授業の進め方等について説明する。	・授業を聞き，内容を板書する。ノートを提出させ，授業への取り組みを確認する。 ・図表等で確認をする。プリントで授業内容の理解度を確認し，評価する。 ・確認テスト①を行う。
	5	① 原始社会の生活と文化 ② 農耕社会の形成と大陸文化の摂取 ③ 律令国家の形成と古代文化の展開 ④ 貴族政治と国風文化の発達	原始共同社会から農耕を通し階級・身分制度が成立する過程を学ぶ。 律令体制に基づく古代社会の枠組みを学ぶ。	
	6	1学期中間検査 範囲： p 5. ～ p 6 2.		

	7	第2章 武家社会の形成と中世文化 ① 武家社会の形成と文化の新気運 ② 下剋上の社会と庶民文化の萌芽 1学期末考查 範囲： p 63. ～ p 102.	院政以降，貴族政権から武家政権に転換する背景を探る。 室町文化の性格と戦国時代の実情を理解する。	・授業を聞き，内容を板書する。ノートを提出させ，授業への取り組みを確認する。 ・図表等で確認をする。プリントで授業内容の理解度を確認し，評価する。 ・確認テスト②を行う。
第2学期	8 9	第3章 近世社会の形成と庶民文化の展開 ① ヨーロッパ文化の接触と国内統一 ② 幕藩体制の成立 ③ 近世社会の発達と町人文化 ④ 近世社会の動揺と庶民文化の発達 2学期中間考查 範囲： p 103. ～ p 156.	鉄砲とキリスト教が，信長→秀吉の統一事業に与えた影響を知る。 江戸幕府成立の過程を学ぶ。 幕政の安定と経済・社会の仕組みについて理解する。	・授業を聞き，内容を板書する。ノートを提出させ，授業への取り組みを確認する。 ・図表等で確認をする。プリントで授業内容の理解度を確認し，評価する。 ・確認テスト③を行う。
	10 11 12	第4章 近代国家の形成と国民文化の発展 ① 開国から明治維新へ ② 立憲政治の形成と国民文化 ③ 日本の近代化東アジア④ デモクラシーと市民文化 ⑤ 激動する世界と日本 2学期末考查 範囲： p 157. ～ p 238.	幕末から明治へと激動の時代を学び，近代国家形成の課程を学ぶ。 民主主義の形成，国民文化の発展を学ぶ。	・授業を聞き，内容を板書する。ノートを提出させ，授業への取り組みを確認する。 ・確認テスト②を行う。 ・図表等で確認をする。プリントで授業内容の理解度を確認し，評価する。 ・確認テスト④を行う。
第3学期	1	第5章 現代の世界と日本 ① 占領と国内改革 ② 国際社会への復帰と高度経済成長 ③ 石油危機と低成長の時代 ④ 新しい国際秩序と日本の課題 学年末考查 範囲： p 239. ～ p 289.	戦後の日本の復興から発展そして現代へどのように推移してきたかを学ぶ。	・授業を聞き，内容を板書する。ノートを提出させ，授業への取り組みを確認する。 ・図表等で確認をする。プリントで授業内容の理解度を確認し，評価する。 ・確認テスト⑤を行う。 ・3年次の学習を終えた時点で，学習の成果を生かして，生徒が設定する課題による追究学習を実施し，レポートにまとめ提出する。

5 学習評価

(1) 評価の観点及び内容について

以下に示す四つの観点に基づき，学習内容のまとまりごとに評価を行い，学年末に5段階の評定に総括します。

なお、学習計画に示された「評価のポイント」は四つの観点と結び付いた具体的な評価規準と考えます。

評 価 の 観 点 及 び 内 容	
1 関心・意欲・態度	原始・古代から現代に至るまでの我が国の歴史の変遷を学習する。その際に政治の流れや経済の発展過程を学ぶだけでなく、文化の特徴や歴史上の人物についても学習する。近現代の歴史では、世界史的視野に立って各国との関連も考えさせる授業を展開し、近現代史を中心とする自国の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会に生きる国家・社会の一員としての責任を果たそうとする。
2 思考・判断	自国の歴史から課題を見だし、世界史的視野に立って各国との関連も考えさせ、多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断する。
3 技能・表現	自国の歴史についての諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに、追究し考察した過程や結果を適切に表現する。
4 知識・理解	自国を中心とする世界の歴史についての基本的な事柄を世界史的視野に立って各国との関連も考えながら理解し、その知識を身に付けている。

(2) 「評価の観点」の評価方法について

評価方法\観点	観 点 1	観 点 2	観 点 3	観 点 4	備 考
学習状況の観察	◎	—	—	○	自己評価の実施。
単元確認テスト	—	○	◎	◎	単元終了後に実施。
課題追究レポート	○	◎	○	○	学年末に提出。
提出物	○	—	○	○	学習の取り組み状況の確認。
定期考査	○	◎	◎	◎	定期考査年 5 回実施。

(◎は、観点の中で特に重視するという意味です。)

平成24年度 商業技術のシラバス

1 科目名, 単位数, 履修学年, 履修区分, 使用する教科書

科目名	商業技術	単位数	2	履修学年・区分	第3学年Aコース(選択)
使用する教科書	商業技術(実況出版)				
副教材等					

2 学習目標

- ①商業文書に関する知識と作成技術を身につけましょう。
- ②全国商業高等学校協会主催珠算・電卓実務検定試験を受験し、資格を取得しましょう。
- ③商業デザインについて理解しましょう。

3 学習方法

- ①ビジネス文書や情報機器について、理解します。
- ②パソコンで実習します。
- ③正確な計算が要求されます。正確で速い計算能力を身に着けるよう、たくさん練習します。
- ④商業デザインについて、理解します。
- ⑤商業デザインを制作します。

4 学習計画

学期	学習内容(単元名)	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	第1部商業文書	・ビジネス活動と文書情報 ・基本文書	・ビジネス文書の種類や機器について理解できたか。 ・ソフトウェアを利用し、練習問題を完成することができたか。 ・基本文書の構成要素が理解できたか。 ・基本文書を作成することができたか。 ・はがきや封筒を見本のように、丁寧に書くことができたか。
	電卓実務検定試験にむけての学習	・電卓計算の問題	・正確な計算ができたか。
第2学期	第1部商業文書(その2)	・乗算・除算・見取算・伝票算 ・2級から1級へ ・応用文書 ・商業デザインとは	・各種目の計算方法が理解できたか。 ・より早く、正確に計算できたか。 ・多様な機能を利用し、応用文書を実際に作成できたか。 ・商業デザインについて理解できたか。
	第2部商業デザイン	・商業デザインの制作	・身の回りの商業デザインについて気が付いたか。 ・テーマにあったデザインを考えることができたか。
第3学期		・商業デザインの制作の続き	・考えたデザインを実際に制作できたか。

5 学習評価

- ①授業中の小テストの点数。
- ②課題の状況。
- ③電卓計算の取り組みや点数。
- ④制作物への取り組みや達成度。
- ⑤授業中の学習態度。（毎時間が評価の対象です。常に真剣に取り組みましょう。）

以上を総合的に判断し、評価します。

平成24年度 地理Bの学習（シラバス）

1 科目名，単位数，履修学年，履修区分，使用する教科書

科目名	地理B	単位数	4	履修学年・区分	第3学年（選択）
使用する教科書	高等学校 世界地理B（帝国書院） 標準高等地図（帝国書院）				
副教材等	フォトグラフィア 地理図説 2011（とうほう）				

2 学習目標

- ・自然と人間生活のかかわりを理解する。
- ・現代世界のグローバル化の動きを捉える。
- ・地理的な見方，考え方を身に付ける。

3 学習方法

- ① 地理の勉強は暗記ではありません。
- 地理の学習では、「なぜそうなるのだろうか」という問題意識を持つことで、興味関心が高まります。次に、その原因を探り、解決に向けての行動を考えていくことが自分自身の探求に繋がるのです。つまり、地理用語だけを暗記しても、地理の学習は難しいということです。
- ② 日々の授業が一番大切です。
- 主体的にノートをとりましょう。教師の説明や余談も含めて、興味を持ったエピソードや理解不十分な点も含めて、自分なりにメモして自分だけのオリジナルノートを作りましょう。
- ③ 自分の考えや疑問をみんなで共有しましょう。
- 分からない点や疑問に思うことは、その時に質問しましょう。あなたの質問が、授業を受けるみんなの新しい知識や理解に繋がります。
- ④ 一家に一冊「地図帳」を置きましょう。
- 常日頃から社会情勢に関心を持ち、テレビのニュースや新聞を見ましょう。その際、分からない地名は地図帳で確認する習慣を身に付けることが大切です。

4 学習計画

学期	月	学習内容（単元名）	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	4	1章 自然環境の多様性 1節 世界の地形と人々	・世界の地形の概要と分布について理解する。河川が作る地形や海岸の地形などについて形状を理解するとともに、人間生活との関連を理解する。	・身近な地形の形状・生活との関連の一般的共通性や地域的特殊性について理解し、それらの知識が身に付いたか。
	5	2節 世界の気候と人々 2章 世界の生活と文化 1節 世界の衣食住	・世界には種々の気候が存在することを理解する。その分布・成因・特徴を理解するとともに、人間の生活との関連を理解する。 ・世界各地で衣食住に代表される生活文化が異なることを理解するとともに、共通性と特殊性を生み出す原因について考察する。	・世界各地の気候の特色を理解し、それらが人間生活とどのような関連を持っているかについての知識が身に付いたか。 ・世界各地の衣食住が自然環境と密接に関係していること、世界各地の文化と宗教との関連、またグローバル化が進んだことによって変化している世界各地の生活・文化についての興味・関心をいただき、主体的に学習できたか。
		2節 世界の都市と村落	・世界各地の都市・村落の発生・発達・現状を理解し、それによって生じる都市問題の一般的共通性・地域的特殊性について理解し考察する。	・世界の都市と村落の発生と発達、都市の拡大と変化に伴う様々な都市問題の発生とその解決方法を理解し、それらの知識が身に付いたか。

	6	3節 消費・余暇活動の変化 3章 世界の産業 1節 世界の農業	・世界各地の消費・余暇活動の一般的共通性と地域的特殊性を理解する。 ・世界各地の農業の一般的共通性と地域的特殊性を理解する。農業と自然環境の関連、農業と社会環境との関連を理解する。	・世界各地の消費・余暇活動がどのように異なるか、それらの特色が何に起因しているか、なぜ近年変化が生じているのかを資料をもとに思考・考察できているか。 ・自然環境との関連によって世界の農業にはどのような特性があるのか、世界や日本が抱えている農業問題の現状とその解決策を理解するとともに、それらの知識が身に付いたか。
	7	2節 世界の鉱工業 4章 現代世界の諸地域と近隣諸国の調査 1節 地域のスケールと調査の視点 2節 市町村規模の地域の調査	・世界各地の鉱工業や資源・エネルギーの一般的共通性と地域的特殊性を理解する。鉱工業や資源・エネルギーと社会環境との関連を理解する。 ・地域調査の意義と技法について理解する。調査対象とする地域のスケールに応じて地域調査の方法が異なることを理解する。 ・市町村規模の地域調査の技法を習得する。対象とする地域と自らの距離に応じて調査方法が異なることを理解する。	・社会環境と鉱工業、資源・エネルギーとがどのように関連し影響を与え合っているのか、世界や日本が抱えている環境問題の現状とその解決策を理解するとともに、それらの知識が身に付いたか。 ・身近な地域の地域調査を実施して、地域の特色を見いだすことに興味・関心をいだき、主体的に学習することができたか。
第2学期	9	3節 国規模の地域調査 1 オーストラリア 2 アメリカ合衆国 3 インド	・国規模の地域調査の技法を習得するとともに、対象地域であるオーストラリア・アメリカ合衆国・インドの特色について理解する。	・興味・関心を持った事項に関して主体的に学習することができたか。 ・対象地域の特色を理解し、それらの知識が身に付いたか。
	10	4節 州・大陸規模の地域の調査 1 東南アジア 2 中央アジア・西アジア・北アフリカ 3 ヨーロッパ	・州・大陸規模の地域調査の技法を習得するとともに、対象地域である東南アジア・中央アジア・西アジア・北アフリカ・ヨーロッパの特色について理解する。	・興味・関心を持った事項に関して主体的に学習することができたか。 ・対象地域の特色を理解し、それらの知識が身に付いたか。
	11	5節 近隣諸国の研究 1 中国の研究 2 韓国の研究	・国規模の地域調査の技法を利用し、対象地域である中国・韓国・ロシアの国としての特色、近隣諸国としての特色について理解する。	・興味・関心を持った事項に関して主体的に学習することができたか。 ・対象地域の特色を理解し、それらの知識が身に付いたか。
	12	3 ロシアの研究		
第3	1	5章 現代世界の地理的認識 1節 地図でとらえる現代世界 2節 地域区分でとらえる現代世界	・地図が世界の諸事象を表現していることを理解する。事象を地図化することでわかりやすくできることを理解するとともにその技法を習得する。 ・世界は事象によって地域区分されることを理解するとともに、地域区分をすることで、世界をよりの確に把握できる	・地図からそこに表現されている事象を適切に読み取る技法や、事象を最も適切に地図化する技法が身に付いたか。 ・地域区分された世界図から事象の特色を読み取る技法や、事象をもとに世界をより適切に理解するために地域区分する技法が身に付いたか。

学 期		3節 結びつきを強める現代世界	ことを理解する。 ・国家や国家群による世界の結びつき、交通・通信の発達による社会の変化、貿易による国家・地域間の結合を理解するとともに、世界の中で地域は孤立して存在し得ないことを理解する。	・現代世界において国家がどのような意味をもっているのか、国家が国家群を形成する理由とその功罪について思考・考察できているか。交通・通信の発達が世界をなぜどのように変化させていったか、その功罪について思考・考察できているか。
	2	6章 現代世界の諸課題と解決への地理的アプローチ 1節 人口・食料問題 2節 環境問題	・地球的な課題の一例としての人口・食料問題について理解するとともに、その解決の方策を考察し、提言できるようにする。 ・地球的な課題の一例としての環境問題について理解するとともに、その解決の方策を考察し提言できるようにする。	・人口・食料・環境問題の発生の背景と理由について思考・考察ができたか。 ・発展途上国と先進国における人口・食料・環境問題の原因・背景と現状について思考・考察ができたか。
	3	3節 民族・領土問題	・地球的な課題の一例としての民族・領土問題について理解するとともに、その解決の方策を考察し、提言できるようにする。	・世界各地における民族・領土問題の原因・背景と現状について思考・考察ができたか。

5 学習評価

(1) 評価の観点及び内容について

以下に示す4つの観点に基づき、学習内容のまとまりごとに評価を行い、学年末に5段階の評定に総括します。

なお、学習計画に示された「評価のポイント」は4つの観点と結び付いた具体的な評価基準と考えます。

評 価 の 観 点 及 び 内 容	
1 関心・意欲・態度	主体的にノートをとることができているか。また、作業や話し合いに積極的に参加しているか。
2 思考・判断	地理的見方・考え方を身に付け、世の中の事象について多面的に考えられるか。
3 資料活用の技能・表現	地図や統計データ、分布図等を的確に読み取り、また自分でも作成できるか。
4 知識・理解	基本的な視点を持ち、様々な課題やその関連性について理解を深め、その一連の知識を身に付けているか。

(2) 「評価の観点」の評価方法について

評価方法\観点	観点1	観点2	観点3	観点4	備 考
学習状況の観察	◎	—	—	○	出席状況・授業への取り組み状況
単元確認テスト	—	○	◎	◎	単元終了後に実施
提出物	○	—	○	○	課題プリントの取り組み状況
定期考査	○	◎	◎	◎	年間5回実施

(◎は、観点の中で特に重視するという意味です。)

平成24年度 ライティングのシラバス

1 科目名, 単位数, 履修学年, 履修区分, 使用する教科書

科目名	ライティング	単位数	4	履修学年・区分	第3学年 Bコース
使用する教科書	EXCEED English Writing New Edition (三省堂)				
副教材等	英単語集				

2 学習目標

◎ みなさんは、中学時代を含めた5年間の英語の勉強を通じて、多くの単語や熟語、文法を学びました。「ライティング」では、それらの知識を活用して、自分が伝えたいことを場面や目的に応じて英語で書けるように勉強します。いろんなことを積極的に英語で表現できるようになりましょう！

3 学習方法

◎ 正確に情報や考えを伝えるために必要なことは、①ボキャブラリーが豊かなこと、②文法を正しく身につけていること、③よい文章をたくさん覚えることです。そのために、単語集を用いて多くの単語を覚えたり、文法ベースで構成されている教科書の例文を何回も書いて練習したりします。目・口・手を使ってたくさんすることを暗記するのがライティングの勉強です。

4 学習計画

学期	学習内容 (単元名)	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	Lesson 1～3	・文型 (SV・SVC・SVO・SVOO・SVOC)	・正しい文型を用いて表現することができたか。
	Lesson 4	・文の種類 (重文・複文)	・重文と複文の仕組みを理解できたか。
	Lesson 5	・進行形	・現在進行形と過去進行形を用いて表現することができたか。
	Lesson 6～8	・完了形	・完了形の考え方を理解し、それを使って文を書くことができたか。
第2学期	Lesson 9～12	・動名詞 ・to不定詞 (名詞的用法・形容詞的用法・副詞的用法) ・原型不定詞	・動名詞を用いて文を書くことができたか。 ・不定詞の考え方を理解し、それを使って文を書くことができたか。
	Lesson 13～14	・助動詞	・助動詞それぞれの違いを知り、使い分けながら文を書くことができたか。
	Lesson 15～16	・態 (能動態・受動態)	・態の考え方を理解できたか。 ・受動態を用いて表現することができたか。
第3学期	Lesson 17	・分詞 (現在分詞・過去分詞)	・分詞の考え方を理解し、それを使って文を書くことができたか。
	Lesson 18～19	・関係代名詞	・関係代名詞の考え方を理解し、それを使って文を書くことができたか。

5 学習評価

評価の仕方は英語Ⅰ・Ⅱとまったく同様です。ライティングでも、最も重視されるのは定期考查の結果です。年に5回実施される定期考查で何点を取ることができたのか。まず、それが大切です。

また、君たちの毎日の学習態度にも注目し、以下の項目を成績評価をする際の重要な資料とします。

★授業に取り組む姿勢

きちんとした態度で話を聞いているか、ノートをしっかり取っているか、活動には積極的に取り組んでいるかなど。

★提出物・・・きちんと仕上げて、期日までに提出できているか。

◎英語の授業はいつでも、「テストの得点＋普段の努力」が大切です。

	バレーボール, バドミントン		
--	----------------	--	--

5 学習評価

①「体育」の授業に積極的に参加し，向上心がみられるか。 ②協調性を持って，周囲と楽しく取り組もうとしているか。 ③技能や安全面など，適切な状況判断ができるか。 ④与えられた課題に対して，しっかりと技能を習得することができるか，また習得しようと努力しているか。 ⑤技能・ルール・安全・理論に対する知識理解を深めているか。 ※授業への取り組み＋記録＋目標設定への達成度
--

第2学期	6	2 動く大地 A 大地の変動と地層 B 山脈の形成とプレート C 変化を続ける地球	地層がどのように形成されたか理解します。 プレートの動きと大陸移動や大山脈形成は連動していることを理解します。また、その原動力についても考えます。	・断層・褶曲・不整合を理解する。 ・プレートの動きと大陸移動・大山脈形成とを関連づけて考えられる。 ・プレート運動の原動力を理解する。
		第2章 生物の移り変わりと遺伝 1 生物の誕生と移り変わり A 地球の歴史と生物の移り変わり B 光合成生物の出現と大気の変化 C 生物の陸上への進出と繁栄	地質時代と生物の変遷との関係を把握します。 光合成生物の出現により酸素が増えオゾン層が形成されたこと、オゾン層の役割を理解します。 生物が水中から陸上に進出するにあたってどのように進化したかを説明しましょう。	・地質時代と生物の変遷との関係を把握する。 ・光合成生物が地球環境に及ぼした影響を理解する。 ・光の性質とオゾン層の役割を理解する。 ・生物の陸上への適応を生物の持つ器官から説明する。
		1 学期期末考查 範囲 教科書 P. 25～P. 46		
	7	2 遺伝の規則性 A 遺伝のしくみ B 遺伝子の本体	メンデルの実験を例に遺伝のしくみを理解します。 染色体と遺伝子の本体DNAとの関係を理解します。	・優性の法則、分離の法則を遺伝子型、表現型を使って説明できる。 ・染色体→遺伝子→DNAの流れを理解する。
		第3章 地球のすがたと大気の流れ 1 地球のすがた A 地球の景観 B 地表の変化 C 日本列島に見られる地形	陸地と海洋の地表の様子をそれぞれ理解します。 地表を変化させる力について学びます。 日本列島の特徴、およびよく見られる地形を把握します。	・陸地の造山帯と海洋の海嶺について理解する。 ・風化や浸食、運搬等について説明できる。 ・火山や河川や海岸をめぐる地形について理解する。
	10	2 学期中間考查 範囲 教科書 P. 47～p. 67		
		2 大気と水の循環 A 大気と水の役割 B 大気と水の流れ C 日本の天気の特徴	太陽放射と大気圏、温室効果の関わりを理解します。 大気や海流の大循環について学びます。 日本の天気の特徴を理解します。	・地球規模での大気や水の役割を理解する。 ・天気図から天気の変化を把握する。 ・四季の天気変化を日本周辺の気団と関連づけて説明できる。

第 3 学 期	11	第4章 生物と環境 1 地球上のいろいろな生物 A 生物の多様性 B 多様な動物とその生活 C 多様な植物とその生活 D その他の生物とその生活	環境への適応から生物の多様性が生まれたことを理解します。 動物の多様性を脊椎動物、無脊椎動物について分類します。 多様な植物を分類します。	・様々な環境への適応という観点を身につけられた。 ・各分類群の特徴と属する生物を例示できる。 ・胞子生殖や種子生殖について理解する。
	2 学期期末考查 範囲 教科書 P. 68～P. 91			
	12	2 生態系 A 生態系とは何か B 陸上の生態系 C 水中の生態系	生態系の構造を理解します。 陸上および水中の生態系について理解を深めます。	・生態系の構成要素とその相互関係を説明できる。 ・食物連鎖や栄養段階、遷移について理解した。 ・海洋と河川の生態系の特徴をまとめられる。
	1	D 生態系における物質の循環 E 地球生態系	生態系のなかでのエネルギー、炭素、窒素の流れを理解します。 地球そのものが1つの生態系であることを理解します。	・生態系のなかでのエネルギー、炭素、窒素の流れを図示できる。 ・地球生態系という考え方を身につけられた。
	2	第5章 地球環境の変化と人間生活 1 地球の環境を考えよう A 生物が示す警告 B 地球環境の変化	カエルを例に生物の絶滅の危機について考えます。生物多様性の保全の意義を理解します。 地球環境諸問題について理解します。	・生物の減少について色々な資料を使って理解できた。 ・地球環境諸問題の現象と影響を認識できた。
3	学年末考查 範囲 教科書 P. 92～P. 109			
	3	2 自然災害を考えよう A 地殻変動による災害 B 気象災害 3 明るい未来を切り開くために A 身近な自然の回復に向けて B 環境を支える知恵と科学	地震の表し方やその影響について理解します。 洪水や干ばつなどの気象災害を理解します。 身近な自然から地球規模の自然の回復の必要性、科学技術の果たす役割を学びます。	・地震や火山についてその影響も含めて理解できたか。 ・気象災害について具体例を挙げて説明できる。 ・身近な自然にとどまらず地球規模での自然回復の必要性を理解する。

5. 学習評価

(1) 評価の観点および内容について

以下に示す4つの観点に基づき、学習内容のまとまりごとに評価を行い、学年末に5段階の評定に総括します。なお、学習計画に示された「評価のポイント」は4つの観点と結びついた具体的な評価基準と考えます。

評 価 の 観 点 お よ び 内 容	
1 自然の事物・現象に関する「関心・意欲・態度」	生物や地学の現象に関心や探求心をもち、意欲的にそれを探究するとともに、科学的態度を身に付けている。
2 科学的な「思考・判断」	生物や地学の現象の中に問題を見だし、観察、実験などを行うとともに、事実を実証的・論理的に考えたり、分析的・総合的に考察したりして、問題を解決し、事実に基づいて科学的に判断する。
3 「観察・実験の技能・表現」	生物や地学の現象に関する観察、実験の技能を習得するとともに、それらを科学的に探究する方法を身に付け、観察、実験の過程や結果およびそこから導き出した自らの考えを的確に表現する。
4 自然の事物・現象に対する「知識・理解」	観察、実験などを通して生物や地学の現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。

(2) 「評価の観点」の評価方法について

評価方法 観点	観点 1	観点 2	観点 3	観点 4	備 考
学習状況の観察	◎	○	◎	○	授業中の態度。
提出物	○	○	◎	○	プリントや問題集。
ノート	◎	○	○	○	年5回提出。再提出あり。
定期考査	○	◎	○	◎	年5回考査。

(◎は観点の中で特に重視するという意味です。)